

令和元年度
事業報告書



社会福祉法人 広寿会



なにげない

日常の『笑顔』

癒しと活力の元

令和元年度
社会福祉法人広寿会 事業報告書
目次

1. 法人部門.....	4
【運営理念】	4
【基本方針】	4
〈ひろた職員心得〉	4
【令和元年度目標の評価】	5
〔1〕 法人の概要	7
〔2〕 役員等の状況	8
〔3〕 令和元年度評議員会開催状況	8
〔4〕 令和元年度理事会開催状況.....	8
〔5〕 職員の状況	9
〔6〕 法人連携事業.....	10
2. 施設部門.....	12
【令和元年度目標の評価】	12
〔1〕 施設部門の状況.....	12
(1) 施設の種類	12
(2) 運営状況（利用状況）	12
(3) 利用者の状況.....	13
〔2〕 事業内容.....	14
(1) ユニットの状況	14
(2) 夢かなえようプラン実施状況	15
(3) 行事報告	16
〔3〕 委員会	17
(1) リーダー会	18
(2) サブリーダー会	18
(3) 事故防止委員会	19
(4) 排泄委員会	20
(5) ユニット会	20
(6) 身体拘束廃止委員会	21
(7) 褥瘡予防委員会	21
(8) 感染予防対策委員会	22
(9) 医療安全管理委員会	22
(10) 苦情検討委員会	22
〔4〕 その他の会議	23
(1) 第三者委員会.....	23

(2) 利用者相談会「いどばた会議」	23
(3) 家族の会	24
〔5〕 その他の事業	24
3. 在 宅 部 門	25
〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた	25
【令和元年度目標の評価】	25
(1) 運営状況	25
(2) 苦情受付	26
(3) 地域連絡会	26
〔2〕 たちばなの家じゃんけんぼん	26
【令和元年度目標の評価】	26
(1) 運営状況	27
(2) 事業内容	27
(3) 事故報告	29
(4) 防火・避難訓練	29
(5) 運営推進会議	30
(6) 苦情受付	30
(7) 在宅ケア委員会	31
〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）	31
【令和元年度目標の評価】	31
(1) 運営状況	32
(2) 事業内容	33
(3) 事故報告	34
(4) 苦情受付	35
(5) 在宅ケア委員会	35
〔4〕 砥部町地域支援事業（砥部町受託事業）	35
(1) 転倒予防教室	35
(2) 地域住民グループ支援事業	36
(3) いきいき見守り配食サービス	36
〔5〕 支援ハウス（砥部町受託事業）	36
(1) 運営状況	36
(2) 行事報告	36
4. 会 議 等	37
〔1〕 主任会	37
〔2〕 職員会	37
〔3〕 広報委員会	38
〔4〕 防災委員会	38
〔5〕 給食委員会	39

5. 研 修 等.....	42
〔1〕 施設実習等受入状況.....	42
〔2〕 施設内研修	42

1. 法人部門

【運営理念】

「ノーマライゼーションの理念を大切に」

- 1 自立支援〈できるだけ自立した生活の支援〉
- 2 自己決定〈できるかぎり本人による選択・決定〉
- 3 権利擁護〈いつの場合も個人の権利を守る〉

【基本方針】

「一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指して

- 1 利用者一人ひとりを見つめ、最期まで尊厳ある生活の実現
- 2 利用者の人権、プライバシーの保護
- 3 在宅高齢者の生活支援、QOLの向上
- 4 保健・医療・福祉の連携を強め、地域の福祉ニーズに応える
- 5 研修及び自己啓発等により職員の資質向上を図る

〈ひろた職員心得〉

今日も一日

1. さわやかな挨拶を交わします

2. 明るい笑顔で接します

3. 思いやりのある言葉で接します

4. 愛と真心を持って介護します

これらを胸に

働ける幸せに感謝します

【令和元年度目標の評価】

(1) 満足度の高いサービス提供と地域に根差した事業所づくり

特養では、元年度も引き続いて介護記録を多職種によるダブルチェックで振り返り、より丁寧で必要なケアの実行に努めた。総入院日数（元年度＝141日、30年度＝195日）を見ると、もう少し何かできることがあったのではないかとその思いもあるが、入院件数が5件（30年度＝12件）に抑えられたことは、このダブルチェックによって体調変化の早期発見等ができた成果と言って良いのではないかと感じている。

さらに、元年度は利用者や家族の希望を叶えたいとする職員発案の『夢かなえようプラン』に取り組み、多くの利用者が希望を実現した。中でも、プラン実行で外出した4日後に亡くなった利用者がいたが、笑顔で納まるその日の写真を家族は大変喜ばれ、後日いただいた感謝の手紙に私たち職員も大きな達成感を得たことは特に印象深い出来事となった。計画を実行したときの利用者の嬉しそうな様子もさることながら、何がしたいかを尋ね、相談しているときの楽しそうな表情、そして計画当日を心待ちにする様子に、この取り組みのもう一つの醍醐味があったと実感している。そしてこの取り組みは、個々のニーズに寄り添うケアの重要性を再認識させるものとなった。

広寿会では地域福祉の推進、そして地域社会への貢献活動の取り組みを実践する中、元年度は、これまで様々な交流をしてきた広田小学校から新たに職場体験の依頼を受け、児童たちに介護用機器を使った介助方法等を見てもらった。児童たちには実際に介助する側やされる側も体験してもらったことで、介護についてより関心を持ってもらえる機会になったのではないかと期待も持っている。社会福祉法人としての自覚を胸に、今後もできる範囲でできることを行い、その使命を全うしていきたいと思っている。たちばなの家じゃんけんぼんにおいては、地域との連携強化を図る目的で定期開催する運営推進会議に近隣の同業事業所からの参加を求め、地域全体の福祉推進のための情報交換も行ってきた。利用者獲得競争が激しい場所にあるからこそ、事業所の垣根を越えて相互に連携していくことで得られることも多く、今後もこの関係性を進展させ、利用者へのサービス向上に寄与していきたいと思っている。

元年度は、念願であったショートステイの増床が実現し、10月から2床増の6床で運営を開始した。ベッド数の不足でこれまで利用をお断りしてきたケースがこれで全て解消するには至らないだろうが、上手く利用調整し、他の福祉サービスと連携を深めることで在宅介護者の負担軽減を図り、利用者が住み慣れた自宅で長く暮らせる支援に、ほんの一步進めたのではないかと感じている。

ただ、その一方で居宅介護支援事業所は、新規契約を上回る数の施設入居や入院により、最終的には年度当初から14人の利用減となった。特に高齢夫婦世帯にあっては、介護者が体調を崩した場合、要介護者の在宅生活はたちまち困難となり、入院や施設入居を余儀なくされる。無論、このことは砥部町デイサービスセンターにも当てはまり、下期からは稼働が目に見えて下降した。独居や高齢世帯の利用者は、ぎりぎりの状態で在宅生活を送られている方が多く、一見すると些細とも思われることでその生活は突然終わってしまうこともある。そういう意味では、提供可能なサービス量や種類が限られた過疎地域で在宅生活を支えていくことの厳しさ

や難しさを改めて思い知らされる1年でもあった。

そして、この状況を打破すべく、法人が長年温めてきた小規模多機能型居宅介護事業所整備計画が、元年度大きく前進した。11月に設計・監理契約を締結し、3月には設計作業が完了した。まだいくつかのクリアすべき課題もあるが、2年7月頃にも着工し、3年3月の事業開始に向けて準備をしていく計画である。



【広田小学校職場体験】



【小規模多機能型居宅介護事業所整備予定地



（旧玉谷小学校）現地調査】

（2）職員の資質、専門性の向上と働き甲斐のある職場づくり

元年度は新規事業の開設に備えた研修への参加と資格取得に努めた。介護福祉士資格については、元年度末現在、常勤介護職員の23%が有しておらず、成長支援の面談等で受験意欲を促すよう努めた。2年度には、3人の常勤職員が介護福祉士資格取得に臨む予定であり、しっかりサポートしたい。介護支援専門員試験は年々狭き門となっており、残念ながら元年度も合格者が出なかった。試験対策研修の機会を増やす等サポート体制を強化して支援していきたい。

施設内研修については、研修に盛り込む内容を事前に研修委員会で検討し、講師を担当する職員がスムーズに研修準備に取り掛かれるようサポートする仕組みを導入したことも奏し、計画どおりに効果的な研修ができた。

たちばなの家じゃんけんぽんでは12月、松山市による実地指導が行われた。文書指導等の大きな指摘はなかったが、口頭指導はいくつかあった。制度理解が不十分であったと気づかされた点もあり、業務改善そして利用者へのサービス向上につなげる良い機会になった。

さらに、元年度の新たな試みとして、職員から広く事業計画案を募り、職員投票を経て決まった4つを事業計画に盛り込んだ。職員旅行では、2班編成で計31人が高知方面に出掛けた他、スポーツ大会には30人の職員が参加してレクバレーで汗を流し、親睦会を行った。どちらも事業所や職種を越えて交流するよい機会となり、参加した職員からは大変好評であった。業務だけの関わりが、このような機会を持てたことで相互理解が進み、今後の業務遂行や職場環境づくりにおいてプラスに作用すると信じている。単年で終わらせることなく、条件が整えば定期実施する方向で検討していきたい。



【職員旅行・高知県 10月】



【スポーツ大会 11月】

(3) 未来を見据えた活力のある法人経営

各事業所が、それぞれに設定した重点行動や目標稼働率を意識して運営に努めてくれたが、在宅部門は残念ながら目標に届かない結果となった。特に立花拠点は、新規契約のほとんどが要支援者であったことで、稼働率の数字以上に厳しい結果となった。幸いにも、10月に短期入所を2床増やしたことで、どうにか法人全体での大幅な収入減は回避することができたが、2年度は事業所間の連携を一層図り、とりわけ在宅部門の収益改善に取り組んでいきたい。

支出に関しては、全ての事業所がコスト意識を忘れず、経費節減に努めた。その一例として、特養では介護現場で大きな支出を占めるおむつについて、29年度から商品や使用方法を一から見直してきた。その成果として30年度支出額からさらに削減を進め、29年度比19%減を達成した。また、30年度下期に特養の照明器具の大半をLED照明に切り替えたことで、元年度の月平均電力使用量は30年度比で6%削減している。今後も職員全体で経費節減に努めていくとともに、環境負荷の低減にも貢献できる事業所づくりをしていきたい。

しかしながら、特養開設から丸19年が経過したことで、修繕費や備品の買い替え費用は増加の一途をたどっており、経営は決して楽観できる状況ではない。法改正等への対応で委託業務が増えたり、最低賃金の改定、そして雇用環境の変化等による新たな職員配置の必要から人件費が膨らんだり、経営環境は目まぐるしく変化している。

また、2年度末に小規模多機能型居宅介護事業所開設を控えていることで、職員確保という大きな問題も立ちはだかってくる。これには、法人全体で職員定数をどうしていくか、介護業界の人材難という状況や定年を延長しようという社会の動向も注視しながら対策を講じていく必要がある。人材においても、また予算面においても、小規模法人であるが故に制約も多いが、確かな将来ビジョンをしっかりと持って、直面する課題解決にこれから全力で取り組んでいかなければならない。

〔1〕 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 広寿会
2. 所在地 愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地
3. 法人の事業
 - ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホームの経営
 - ② 第2種社会福祉事業
 - (イ) 老人短期入所事業の経営
 - (ロ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ハ) 地域密着型通所介護事業の経営
 - (ニ) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の経営
 - (ホ) 介護保険法に基づく介護予防通所介護事業又は第1号通所事業の経営
 - (ヘ) 生活支援ハウスの経営
 - ③ 公益事業
居宅介護支援事業

〔2〕役員等の状況

1. 構成（令和02年03月31日現在）

評議員	定数	7人
理事	定数	6人
監事	定数	2人

〔3〕令和元年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数		議案
令和元年06月24日 (評議員) 6人 (監事) 2人	報告	第1号 平成30年度事業報告について
	議案	第1号 平成30年度計算書類の承認について
		第2号 令和元年度第一次補正予算(案)の承認について
		第3号 理事及び監事の選任について
令和02年03月29日 (評議員) 6人 (監事) 2人	議案	第4号 令和元年度第二次補正予算(案)の承認について
		第5号 令和2年度事業計画(案)の承認について
		第6号 令和2年度当初予算(案)の承認について

〔4〕令和元年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数		議案
平成31年04月26日 (理事) 6人 (監事) 1人	議案	第1号 短期入所生活介護事業所ひろた増床に係る改修工事設計・監理業務の委託契約締結等について
令和元年06月07日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第2号 平成30年度事業報告並びに決算の承認について
		第3号 短期入所生活介護事業所ひろた増床に係る改修工事請負業者の選定等について
		第4号 令和元年度第一次補正予算(案)の同意について
		第5号 理事及び監事の候補者推薦について
		第6号 評議員会の招集について
令和元年06月24日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第7号 理事長の選定について
		第8号 規程等の一部改正について
		第9号 評議員選任委員会委員の交代について
		第10号 短期入所生活介護事業所ひろた増床に係る工事請負契約について
令和元年09月28日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第11号 理事長専決事案に係る同意について
		第12号 規程の改廃について
		第13号 小規模多機能型居宅介護事業所整備計画に係る設計監理業者の選定等について

令和元年 11月 09日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第 14号 規程の一部改正について 第 15号 小規模多機能型居宅介護事業所整備に係る設計・監理業者の決定について
令和02年 02月 14日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第 16号 規程の一部改正について
令和02年 03月 16日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第 17号 令和元年度第二次補正予算(案)の同意について 第 18号 規程の一部改正について 第 19号 小規模多機能型居宅介護事業所整備計画について 第 20号 令和2年度事業計画(案)の同意について 第 21号 令和2年度当初予算(案)の同意について 第 22号 評議員会の招集について

〔5〕 職員の状況

【職員数】

単位：人

	常勤				短時間勤務職員		計	
	正規職員		準職員		30年度	元年度	30年度	元年度
	30年度	元年度	30年度	元年度				
男	10	11	1	1	2	3	13	15
女	16	16	4	4	14	14	34	34
計	26	27	5	5	16	17	47	49

※ 人数は、各年度3月31日現在の在職数。

【勤続年数】

単位：人

		1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年～ 15年未満	15年以上	計	
常勤職員	正規職員	男	0	2	2	2	3	2	11
		女	0	2	4	3	3	4	16
	準職員	男	1	0	0	0	0	0	1
		女	1	0	1	2	0	0	4
非常勤職員	男	1	2	0	0	0	0	3	
	女	0	5	4	2	3	0	14	
計		3	11	11	9	9	6	49	

【有資格者数】

単位：人

	看護師		准看護師		社会福祉士		介護福祉士		管理栄養士		介護支援専門員	
	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度
男	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	2	3
女	2	2	5	5	0	0	14	14	2	2	3	2
計	2	2	5	5	0	0	23	23	2	2	5	5

※ 1人で2以上の資格を有するものについては、それぞれに計上

※ 人数は、各年度3月31日現在の取得資格

【研修修了者の推移】

単位：人

認知症対応型 サービス事業 開設者研修		認知症対応型 サービス事業 管理者研修		小規模多機能型 サービス計画 作成担当者研修		認知症介護 実践者研修 (実践リーダー研修)		認知症介護 実践者研修	
30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度
0	1	3	3	0	1	1	1	5	6

※ 1人で2以上を終了するものについては、それぞれに計上

※ 人数は、各年度3月31日現在の取得資格

〔6〕法人連携事業

①砥部町社会福祉法人連携

【砥部町社会福祉法人連携協議会】

メンバー：砥部町社会福祉協議会・砥部寿会・南風会・広寿会

目的：砥部町内の社会福祉法人が連携し「地域における公益的な取り組み」を行う。

《総評》

砥部町内4つの社会福祉法人による「地域における公益的な取り組み」を継続して推進した。

元年度は「法人職員研修」「災害支援の取り組み」を実施した。法人職員研修は初めての試みということもあり、各法人職員が集まり、社会福祉法の改正や法人連携協議会の取り組みについての講義と地域における公益的な取り組みについてグループワークを実施し、広寿会からは主任以上の5人が参加した。



【福祉避難所開設訓練】

災害支援の取り組みに関しては、砥部町防災訓練に合わせて、砥部オレンジ荘にて福祉避難所開設訓練を合同で行った。事前に打ち合わせを行ったうえでの訓練であったが、実際に運営を行うと反省点等多くあり、大規模災害が発生したときのことを思うと課題が出てくる。非常時に少しでもスムーズに対応できるよう、日頃から法人内でも研修会等を通して検討していく必要がある。

今後も砥部町内の社会福祉法人が協力して機能的かつ強力な体制づくりを進め、広寿会もその中でしっかりと役割を果たしていきたい。

②さんぱつカフェ

【砥部町地域福祉活動推進懇談会】

メンバー：地域住民・砥部町役場広田支所・砥部町社会福祉協議会・広寿会

目的：住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民や社会福祉関係者が互いに協力し、地域の福祉課題を解決するために取り組む。

《総評》

30年度に引き続き、認知症カフェに散髪を組み合わせた「さんぱつカフェ」を実施した。社会福祉協議会のバックアップもあり、運営する地域の方々もそれぞれの役割を持ち、いきいきと活動されている。広寿会は送迎とカフェのサポートを行った。

3か月毎の開催で地域住民にも定着してきており、参加者も40人程度と活気ある活動となっている。

開催予定であった3月は新型コロナウイルス感染症の流行により中止となっ
てしま
い、参加を予定していた方からは「次はいつ？」と開催を望む声が多く聞かれた。

2. 施設部門

【令和元年度目標の評価】

【重点目標】 利用者と職員の笑顔あふれる施設づくり

元年度も入退居の多い1年だった。介護度4または5の方を優先的に受け入れるため、ターミナルに近い状態で入居される方も増えており、平均入居期間は3年程度となっている。30年度は入院中に亡くなられる方が多かったが、元年度は施設でのターミナルケアを希望される方が多く、急変した1人を除く11の方を看取らせていただいた。体調の変化を早めに察知し家族や医師に相談を行えたことで、施設での看取りに理解をいただけたと感じる。

変化を察知する機会となるダブルチェックも定着し、入院件数は30年度の12件から5件に大幅に減少した。残念ながら介護事故による転倒骨折で長期入院となったケースがあり、入院日数は目標の100日未満とはならなかった。体調の変化はダブルチェックで察知しつつ、安全面等のリスク管理はさらに対策、検討する必要性を感じた。

事業計画に掲げた『夢かなえようプラン』は、家族に依頼した満足度アンケートの結果や直接利用者からの希望を聞き、外出や食事作り等の個別プランを実施した。個別での関わりを通して、いつもとは違う利用者の表情に同行した職員は多くの気づきを得ることができ、モチベーションの向上にもつながっている。

施設内研修については、研修委員会を設置し、施設部門だけでなく在宅部門にも声を掛けて取り組んだ。より職員に理解しやすい研修を心掛けたが、職員の経験年数によっては理解度に差があり、レベルにあわせた研修が必要だと感じている。

重点目標の進捗度を確認するアクションプランを通して、リーダー以上で達成状況を確認し具体的な対応について話し合えたことが、目的意識の共有につながったと感じる。

〔1〕施設部門の状況

(1) 施設の種類

- ①特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設） 定員 30人
- ②老人短期入所事業所（指定短期入所生活介護事業） 定員 6人

※令和元年10月1日より定員4人から6人に変更

(2) 運営状況（利用状況）

【指定介護老人福祉施設】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0
稼働率(%)	103.2	102.4	102.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.6	99.6	98.6	99.5	98.1	100.2

※ 30年度稼働率 102.0%（空床利用含）

※ 平成30年7月豪雨災害に伴う大洲市からの緊急受入1人は、元年6月26日より正式に入居

【指定短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用件数	14	13	14	14	14	14	16	16	18	16	17	14	15
稼働率(%)	100.0	99.1	100.8	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0	101.0	99.4	100.0	89.7	99.1

※ 30年度稼働率 98.7%

※ 元年度全体（特養＋短期）稼働率 100.0% 30年度全体（特養＋短期）稼働率 102.1%

(3) 利用者の状況

【出身地別入居・退居状況】

単位：人

市町／区分	保険者別利用者数			令和元年度中の異動状況					
				入 居			退 居		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
砥部町	6	11	17	1	3	4	2	3	5
内子町	2	8	10	1	5	6	2	3	5
松山市	0	1	1	0	1	1	0	2	2
伊予市	0	1	1	0	0	0	0	0	0
大洲市	0	1	1	0	0	0	0	0	0
合 計	8	22	30	2	9	11	4	8	12

※ 平均在籍日数 1,030日 大洲市からの緊急受入1人は、元年6月26日より正式に入居

【年齢区分別構成状況】 令和02年03月31日現在

単位：人

年齢区分	男	女	計
75歳～79歳	1	0	1
80歳～84歳	1	3	4
85歳～89歳	2	6	8
90歳～94歳	3	10	13
95歳以上	1	3	4

【入院経過状況】

件数	入院日数	入 院 期 間	入 院 原 因
1	9日	H31.04.09 ～ 04.19	尿路感染症
2	0日	04.17 ～ 04.18	窒息
3	43日	04.30 ～ R01.06.13	脳梗塞
4	6日	R01.11.06 ～ 11.13	意識消失
5	83日	12.09 ～ R02.03.02	左大腿骨骨折
計	141日		

※ 30年度入院 12件 延べ入院日数 195日

※ 入退院日は入院日数に含めない

【病院受診状況】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回診	3	2	3	4	2	5	5	29	4	5	5	6	73
定期	1	0	1	2	2	1	2	1	2	3	2	1	18
臨時	6	1	5	1	0	1	2	2	1	5	0	2	26

※ 30年度受診 回診 103人 定期 29人 臨時 50人

総合記録シートを基にダブルチェックを行うことで、利用者の体調変化の早期発見ができた。また、細かなケアの見直しができ、体調不良になる利用者が減ったことで、回診時の薬の処方だけでなく、臨時受診・入院者数も大幅に減少した。

〔2〕事業内容

（1）ユニットの状況

◆一丁目ユニット・・・男性：7人 女性：8人 平均年齢：88.9歳 平均介護度：4.4

ユニット利用者の半数が要介護5で外出が難しくなっており、利用者と一緒にユニットを盛り上げていくためには、何ができるかを考えた1年だった。その中で、多くの利用者が食事を楽しみにされていることから、食事作りを中心に行った。食べたい物を聞き取り、希望の多かったものをメニューに取り入れた食事会は、調理に参加できる利用者は少数だったが、食事の際にはターミナル診断を受けている利用者も参加でき、「美味しい」「よかったよ」と喜んでいただくことができた。また、お品書きや重箱を準備する等雰囲気にもこだわり、楽しんでいただけるよう工夫した。

入居された日から最期を迎えるまで、できる限り利用者に寄り添い、その日その瞬間の関わりを大切に、少しでも利用者や家族に後悔がないよう、自分たちにできることを考え支援していきたい。



【お花見散歩】



【年始の集合写真】



【食事会】

◆三丁目ユニット・・・男性：1人 女性：14人 平均年齢：90.3歳 平均介護度：3.8

利用者の望んでいることを叶えられるような行事を企画し、実現することができた。

花火が見たいと希望された利用者には、夏祭りのような雰囲気を感じられるよう、屋外で焼きそばを作って食べ、皆で花火大会を行った。ユニットを越えて大勢の利用者に喜んでいただけた。

また、ターミナル診断を受けている利用者が、お正月に「地元へ帰りたい」と強く希望されていることを知り、その日のうちに里帰りすることができた。昔のことを懐かしみ、昨日のここのよう

に生き生きと話される姿に触れることができ感動した。

利用者との出会いと別れの多い1年だったからこそ、今日の関わりが最後になるかもしれないと常に心に留め、1日1日を大切にすることを学ぶことができた。これからも、利用者の声に耳を傾け、想いを実現し、笑顔あふれるユニットを作っていききたい。



【ちらし寿司作り】



【砥部町デイサービス交流会】



【さつまいも掘り】

(2) 夢かなえようプラン実施状況

(目的) 元気なうちにしたいこと(〇〇にいきたい。〇〇を食べたい。〇〇に会いたい。)等をケアプランに盛り込み楽しみのある生活を提供する。

(実施内容)

30年度に行ったケアプラン満足度アンケートからニーズや課題を把握し、さらに利用者や家族の希望を聞き取った。それにより、ケアプランの充実を図り、夢かなえようプランを計画し実施した。

内 容	計画	実施	内 容	計画	実施
お寺・お宮・お墓	7	6	家族と過ごす	2	2
外食	5	4	外出(自宅等)	10	6
買い物	1	1	花火	1	1
畑仕事	1	1	好きな食べ物	3	3

《評価》

元年度中、入退居を含め42人対象のうち、30人のプランを立案し、24人の実施となった。希望のほとんどが外出であり、家族等と日程調整を行いながら実施した。「お墓参りができてよかった」「お仏壇のことが気がかりでいけなんだんよ」と実施してみないと分からない言葉があり、また、家族には「婆ちゃんと一緒にうどんが食べれるなんて思わなかった」と大変喜んでいただくことができた。思っても利用者、家族ともに、なかなか言いづらいこともあると新たな気づきとなった。夢かなえようプランから多くの気づきを得たことにより、今まで以上に利用者や家族等との関係を築き、聞き取り等を行うことにより楽しみのある生活の提供を行っていききたい。

3月にも外出計画を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、実施を見送っている。2年度は、外出だけでなく、利用者のニーズを把握するため再アセスメントを行い、希望に沿えるプランをできるだけ早めに計画・実施していききたい。

《実施写真》



【外出・お宮参り】



【外出・道の駅からり】



【外出・お宮、ミカン狩り】



【畑作り】



【外出・自宅】



【外食・買い物】



【お墓参り】



【外食・道の駅せらぎ】



【夏祭り・花火大会】



【外出・地元、自宅】

(3) 行事報告

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

季節行事(各ユニット) 不定期

食事作り・おやつ作り 1回/月

季節行事等

感謝祭・ユニットでの外出行事(1回/年)・個別対応(外出、外食、買い物等)

お花見・そうめん流し・七夕・物故者を偲ぶ会・地方祭・いもたき会・もちつき・新年会

砥部町デイサービスセンターとのレクリエーション交流等

ボランティア

散髪ボランティア(隔月)・広田小学校・広田保育所(不定期)

「おはなしかい」砥部町立図書館・広田保育所(偶数月)等

《評価》

利用者の重度化に伴い集団での外出が難しくなっている中、少しでも季節感を楽しんでいた
だこうと年間行事計画を基に実施した。結果としては、食事中心の行事が多くなったが、夢かなえ
ようプランも合わせて実施することで、個々のニーズに沿えるよう努めた。慣れ親しんだ季節行事
は昔を思い出す機会にもなり、「ようやくもろた」「楽しかった」と喜んでいただいた。

保育所や小学生との交流は、表情も一段と緩み、笑顔を見ることができた。

《行事写真》



【感謝祭】



【肉フェス】



【物故者を偲ぶ会】



【散髪ボランティア】



【ひろたふるさとフェスタ】



【おまつりごっこ・広田保育所】

〔3〕委員会

【委員会の種類と構成】

利用者の生活の質の向上、健康管理やケアの方法等について、関係職員で構成する会議及び委員会等で専門的に分析・検討し、方針決定する。

職名等 委員会等の名称	施設 長	部 長	生活 相談 員	看 護 主 任	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	ユ ニ ッ ト リ ー ダ ー	ユ ニ ッ ト サ ブ リ ー ダ ー	ユ ニ ッ ト 職 員	そ の 他 関 係 職 員
(1) リーダー会	●	●	●	●	●	●	●			
(2) サブリーダー会			●	●		●		●		
(3) 事故防止委員会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(4) 排泄委員会			●	●		●		●		
(5) ユニット会			●	●	●	●	●	●	●	
(6) 身体拘束廃止委員会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(7) 褥瘡予防委員会	●	●	●	●	●	●	●			
(8) 感染予防対策委員会	●	●	●	●	●	●	●			
(9) 医療安全管理委員会	●	●	●	●	●	●	●			
(10) 苦情検討委員会	●	●	●	●	●	●	●			●

※ 「その他関係職員」とは、在宅部門や管理部門職員で、協議事案に直接または間接的に関係する職員

(1) リーダー会

(開催日) 毎月第3水曜日

(主な協議事項) アクションプランについて、ユニット報告、業務連絡

開催日	内容
H31. 04. 16	夢かなえようプラン 支援ハウス入居者の緊急時の対応 人事
R01. 05. 15	夢かなえようプランアンケート 時間外勤務 人事
06. 19	夢かなえようプラン情報収集 家族会
07. 17	改修工事 介護の知識配付 災害派遣チーム『愛 DAT』の設置及び登録
08. 21	夢かなえようプラン実施 物故者を偲ぶ会 避難訓練 家族総会 有給休暇
09. 19	職員旅行
10. 16	家族会 マニュアル見直し
11. 27	感染予防 事業計画案 人事
12. 18	新人職員研修 面会者の対応 マニュアル見直し 個人情報取り扱い
R02. 01. 22	インフルエンザ注意喚起 事業報告 正職試験 2年度予算 リスクマネジメント
02. 19	事業計画案 人事 おやつ代
03. 18	業務改善 防火管理者交代 新型コロナウイルス感染症の対応 2年度重点目標 人事

(2) サブリーダー会

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 事故防止対策、ケース検討、ケアの方向性・確認

開催日	内容
H31. 04. 10	事故検討(内出血、転倒、立ち上がり) ヒヤリハット、事故報告書記入の仕方
R01. 05. 07	事故防止対策検討(トイレ介助中のヒヤリハット)
06. 11	事故検討(転落) ケース検討(眠前薬服用)
07. 10	事故検討(内出血)
08. 16	事故検討(転落、内出血)
09. 11	事故検討(内出血、起居動作時の転倒、利用者の所在の確認方法)
10. 09	事故検討(内出血)
11. 13	事故検討(転倒、内出血)
12. 08	事故検討(転倒)
R02. 01. 08	事故検討(爪切り事故、転倒) 電動爪切りの購入検討
02. 12	事故防止対策検討(トイレ介助中の事故防止、湯たんぼ使用方法) 新人職員経過報告 インフルエンザ注意喚起
03. 16	事故防止対策検討(ショートステイ入居時の内出血) 踵の褥瘡への注意喚起

(3) 事故防止委員会

①件数

《危険度0》	… 事故を未然に防ぐことができた	13件
《危険度1》	… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった	91件
《危険度2》	… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要	37件
《危険度3》	… 簡単な処置や治療を要した（消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用）	23件
《危険度4》	… 濃厚な処置や治療を要した（骨折・縫合・入院等）	2件

	ヒヤリハット報告書（危険度0・1）	事故報告書（危険度2・3・4）
特 養	96	56
短期入所	8	6
合計	104	62

※ 30年度 件数 ヒヤリハット報告書… 152件 事故報告書… 61件

②事故・ヒヤリハットの内容と件数

ヒヤリハット報告書内容	
車椅子からの立ち上がり	6
介助中	6
ベッドからの転落【予防策】	2
異食	1
一人で動かされていた	12
服薬忘れ【医療事故】	1
利用者トラブル	2
内出血	74

事故報告書内容	
皮膚剥離	20
転倒	4
転落	25
介助中の事故	6
転倒からの骨折	1
窒息	1
その他	5

③分析

報告書に挙がる内容で圧倒的に多いのが皮膚に関するものである。内出血と皮膚剥離が合わせて94件と多いが、30年度と比較すると47件減少した。介護機器の導入に加えマルチグローブの活用等で、皮膚のずれが少ないケアを行えたことが効果のひとつとして挙げられるが、内出血が発生しやすい利用者が死亡退居されたこともある。自力で動かれることの少ない利用者の内出血や皮膚剥離はほとんどが外的要因であるため、移乗やポジショニングを含めた介助方法をさらに見直し、再発防止に向けて取り組む必要があると感じた。

《危険度4》の2件は、窒息事故とトイレ誘導時に転倒し骨折した事故である。窒息事故は発見が早く適切な応急処置が行えたこともあり、一晩の経過観察ですぐに退院できたが、転倒し骨折したケースは、入居して1週間後に事故が発生しその後3か月間の入院となってしまった。立位が安定しているという思い込みから、いざというときに支えられる位置で介助できていなかったことが原因である。退院後は介助方法を見直し、対応を行っている。事故防止は、日々の業務の中でいかにリスクを予測できるかにかかっている。施設で取り組んでいるダブルチェックで、様々なリスクについて看護職・介護職とで情報を共有し、早期に対応できるようにしていくことが課題である。

(4) 排泄委員会

(目的) 排泄アセスメントを行い、排泄パターンの見直しと排泄用品の適正使用を検討する。
機能性尿失禁の利用者の排泄パターンを見直す。

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 排泄アセスメント・排泄用品の見直し

《振り返りと目標》

年間延べ38人の尿量測定と排泄アセスメントを実施し、個々にあったトイレの誘導時間や使用する排泄ケア用品の検討、水分量の調整を行った。ショートステイの増床に伴い、利用者が増加したが、細かくアセスメントを行ったことで30年度よりさらに経費を削減することができた。

また、洗浄方法等も見直し、尿路感染症の予防と快適な排泄ケアに取り組んだ。

身体機能の低下によって排泄ケアが難しい利用者もいるが、今後も個々にあった負担のない排泄ケアを検討していく。

(5) ユニット会

(目的) ケアの方向性の検討・確認 委員会報告を行う。

(主な協議事項) ケース検討 リハビリ方法 褥瘡予防 身体拘束廃止

各委員会報告 栄養ケアマネジメント ヒヤリハット・事故報告検討

【一丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
H31.04.30	ポジショニングの見直し デスカンファレンス	10.24	申し送りの徹底 生活状況の見直し
R01.05.21	食事ケア見直し	11.28	食事ケア見直し
06.20	新規利用者のケア検討 統一した介助方法の検討	12.26	感染予防 食事ケア見直し
07.22	利用者の体調管理の留意点(衣類調整等)	R02.01.27	感染予防 食事ケア見直し
08.28	熱中症、脱水予防	02.25	食事作り 事故検討、ポジショニングの見直し
09.24	食事ケア見直し 排泄ケア見直し	03.26	新規利用者のケア検討 デスカンファレンス

【三丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
H31.04.25	デスカンファレンス 食事ケア見直し	10.28	食事ケア見直し 室温・衣類調整の徹底
R01.05.20	デスカンファレンス 新規利用者のケア検討	11.29	感染予防 食事ケア見直し
06.25	デスカンファレンス 新規利用者のケア検討	12.27	デスカンファレンス 新規利用者のケア検討
07.31	新規利用者のケア検討 脱水予防の徹底	R02.01.30	デスカンファレンス ショートステイ新規利用者の情報共有

08.30	食事ケア見直し	02.27	デスカンファレンス 食事ケア見直し
09.26	食事カードの統一	03.24	デスカンファレンス 利用者の情報共有・ケアの統一

(6) 身体拘束廃止委員会

(目的) 身体拘束を行わないケアをする。

(主な協議事項) センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の利用者の状況

《振り返りと目標》

年2回の研修に加え定期的に検討を行うことで、身体拘束を行うケースはなかった。新規利用者については、状況に応じてセンサーマットを使用し居室での行動等観察を行い、利用者の動きに合った環境を整備していくことで、使用頻度を減らしていくよう取り組んでいる。

ショートステイ利用者については、転倒防止に加えスムーズな排泄支援を目的として、家族や居宅介護支援事業所からセンサーマットの設置を希望されるケースが増えている。しかしながら、職員が都度訪室することにストレスを感じる利用者もいるため、安全とプライバシー両面の確保を様々な視点で検討していく必要がある。

(7) 褥瘡予防委員会

(目的) 褥瘡予防と早期発見、対応を行う。

開催日	追加議題
R01.06.19	ハイリスク者の抽出(6人) 前回との比較・原因分析 褥瘡発生者2人の経過・対応検討
12.18	ハイリスク者の抽出(2人) 前回との比較・原因分析 褥瘡発生者2人の経過・対応検討(前回からは1人治癒、1人発生、1人治療継続中) 寝る向きの偏りがちな利用者の褥瘡予防検討

《振り返りと目標》

年2回の健診結果を基に褥瘡発生リスクを点数化し、ハイリスク者を抽出し継続的に対応を行っている。元年度は、2人の利用者に褥瘡が発生した。1人は病院入院中に発生し、施設に戻られてからも処置を続け約2か月で治癒したが、もう1人は施設において発生。麻痺側の踵にできてしまい、処置を続けているが3か月経った今も治癒には至っていない。

褥瘡は一度発生すると、治癒するまでにかなり時間を要し利用者への負担も大きい。動くことができる利用者も、褥瘡のリスクが高いことを常に意識し、今後も多職種連携して褥瘡が発生しないよう努めていきたい。

(8) 感染予防対策委員会

(目的) 感染予防及び発生時の対応と検討を行う。感染対策に関する職員研修を行う。

開催日	追加議題
R01. 06. 19	冷蔵庫内等食品の取り扱いの注意喚起
09. 19	手洗い・うがいの徹底 インフルエンザ予防の注意喚起
12. 18	インフルエンザ・ノロウイルス感染予防の注意喚起 加湿・環境整備の徹底 面会時のマスク着用について 利用者が管理している食品について
R02. 02. 27 (臨時開催)	新型コロナウイルス感染症対策 (職員への対応・特養・短期入所での対応・通所事業所での対応等)
03. 18	新型コロナウイルス感染症対策についての注意喚起 体調管理・環境整備の注意喚起

《振り返りと目標》

2月に職員1人がインフルエンザに感染したが、早めの対応で感染拡大しなかった。手洗い・うがいに加え、12月からの職員のマスク着用が感染拡大を防止できたと思われる。

2月下旬からは新型コロナウイルス感染症の対策も加わり、インフルエンザ以上に危機感を持ち、あらゆることを想定した対応を考えてきた。今後もしっかりと情報を把握し、そのときそのときで対応策を考え、予防していきたい。

(9) 医療安全管理委員会

(目的) 医療事故防止の徹底と安全に対する意識啓発、対策検討を行う。

開催日	追加議題
R01. 06. 19	医療事故0件報告 服薬ミス予防の注意喚起 経管栄養中の事故防止の注意喚起
09. 19	医療事故1件報告(ヒヤリハット報告) 薬の服薬忘れ予防の検討
12. 18	医療事故0件報告 服用ミス予防の注意喚起
R02. 03. 18	医療事故0件報告

《振り返りと目標》

元年度は、医療事故が大幅に減少し、ヒヤリハット1件のみであった。経管栄養、バルンカテーテルを留置している利用者が減ったことも要因として挙げられるが、誤薬や配薬・服用ミスは、配薬時のダブルチェックと再発防止策を徹底することで、7件から1件に減少した。医療事故は人的ミスであり、今後も定期的に注意喚起やチェックの方法の検討を行い、医療事故ゼロを目指していきたい。

(10) 苦情検討委員会

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：0件

〔４〕その他の会議

（１）第三者委員会

日 時：令和元年 07 月 11 日（火） 14:00～15:00 / 特養ひろた研修室

出席委員：3 人

協議議題：30 年度事業報告、監事監査報告、各事業所事故報告

ショートステイ増床について、新規事業について

意見等：施設のインフルエンザ集団感染について、発生した場合のマニュアル整備を進め、予防薬を使用するタイミング等もマニュアルに整備してはどうかとのアドバイスをいただく。

砥部町デイサービスセンターの事故について、見守り不十分の事故が 13 件起きているようだが、どのように見守りをしているのか聞かれる。利用定員が 20 人から 25 人に増えたり、育児休業する職員の補充として新規職員を雇用したりして、しばらく慌ただしい状況だったことが一因として考えられる。体制が整い、徐々に落ち着いてきたが、見守りには限界もあり、より丁寧な分析と対応策を検討する必要があると伝える。

（２）利用者相談会「いどばた会議」

砥部町介護相談員が施設に来所し、利用者と面談。

利用者は毎回楽しみにしており、介護相談員に地域の出来事を聞いたり、施設での日々の様子を話したりしている。また、職員では聞き出すことができない利用者の声を施設に伝えてもらうこともあり、利用者にとって心強い存在となっている。

開催日	相談員数	相談利用者数	開催日	相談員数	相談利用者数
R01. 05. 15	2	14	10. 16	2	15
06. 19	2	18	11. 20	2	19
07. 17	2	16	12. 18	2	16
08. 21	2	15	R02. 01. 15	2	15
09. 18	2	16	02. 19	2	19

※ 4 月及び 3 月は未実施

（介護相談員から報告された利用者の声及び質問事項とその対応）

報告事項／質問事項	対策・理由
R01. 05. 15 ・ショートステイ利用者より、自分が家族と同居することで家族の折り合いが悪くなっているため、早く施設に入居したいとの訴えがあった。	・居宅介護支援事業所や家族にも入居に関して確認しているが、そのような希望はないことを説明する。
R01. 09. 18 ・施設での生活が退屈なので外出したいと訴えのある利用者がいた。	・夢かなえようプランの実施を行っており、現在個別での外出を進めている状態であることを説明する。
R01. 12. 18 ・今のスプーンでは食事が食べにくいとの訴えがあった。	・今までも本人とスプーンについて相談し試してみたが、本人が納得いくものがなく、今後も継続して検討していくことを説明する。

(3) 家族の会

施設利用者の家族同士の親睦や施設職員との交流により相互理解を深め、施設の運営や介護サービスにおける意見交換や課題解決を行い、サービス内容の向上を図ることを目的とする。また利用者の家族へ施設行事の積極的参加を促し、利用者の施設生活をより良いものとする。

○平成 31 年 04 月 20 日・21 日

感謝祭前日準備・感謝祭屋台運営、フリーマーケット

○令和元年 06 月 30 日・07 月 04 日（予備日）

総 会・・・27 家族 34 人、面談 27 家族

総会予備日・・・1 家族 1 人、面談 1 家族

※面談が実施できなかった家族については後日面談を実施



【感謝祭屋台運営】

○令和元年 10 月 20 日

家族の会総会・大掃除・・・16 家族 21 人

いもたき会・・・15 家族 22 人



【家族の会 大掃除】

〔5〕 その他の事業

各地区の介護予防教室

【介護予防教室】

地区の集会所で行われる介護予防教室に、特養ひろた利用者も里帰りを兼ねて参加した。「久しぶり」「元気そうでなにより」と笑顔で出迎えてもらい、利用者の表情も一段と明るくなる。職員には利用者の生活歴や地域とのつながりを知る貴重な機会となっている。



【介護予防教室参加】

3. 在 宅 部 門

〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた

【令和元年度目標の評価】

【重点目標】 できるだけ住み慣れた家、地域に住み続けられる支援

元年度は、施設入居と長期入院となるケースが多く利用状況の変動が大きかった。担当している要介護認定者の人数は、31年4月＝51人、2年3月＝46人と大きく減少は見られていないが、長期入院により介護サービス利用が中断し、最終的にサービス利用者は大幅に減少した。独居で家族の対応が難しかったり、老々介護で、主介護者が入院したりすると1人での生活が困難となり、施設入居となるケースが増えてきている。もし、旧広田地区に小規模多機能型居宅介護事業所があれば、住み慣れた自宅で生活ができていた方もいたのが悔やまれる。

砥部町より受託している要支援者の人数は大きく変動なく、介護更新認定もほぼ変わることなく経過している。各サービス事業所の適切な支援により安定した身体状態等が維持でき、利用者自身も弱らないようにと適度に家事や運動等行う習慣ができつつあるためと思われる。ランチ型総合相談は、新たに支援が必要な方が少なく30年度に比べ減少となった。高齢者実態把握事業は、30年度より引き続いて支援を行うことにより件数は増加した。中には介護保険を申請し支援を受ける方もおられたが、多くは介護サービスを受けることなく生活が送れている。

また、大きな災害は元年度中発生することはなかったが、30年度に引き続き年間通して各地区で道路等の復旧作業が行われていた。時間帯通行止めにより、各サービス事業所に無理をお願いすることもあったが、サービス利用時間帯等調整し、継続した支援が行えたことにより、介護度が変わらず生活できた方も多くいた。

介護を経験したことがある方とそうでない方とで介護サービスの受け止め方に差があり、導入に苦慮することがある。それにより状態が悪化し、在宅生活が継続できなくなるケースがある。できるだけ自分でできることをするのは大切であるが、限界になる前に早めの対応ができるよう、包括支援センター等と協力して地域の方に介護サービスの理解をしてもらえようようにしたい。

2年度中に広田地区に小規模多機能型居宅介護事業所が開設予定であり、認知症のある独居高齢者を中心に、より細かな対応が必要な方は、利用者、家族に事前説明をして希望等聞き取りを行っていきたい。さらに、町外で長期のショートステイを利用していたり、やむなく子供宅にて生活したりしている利用者の状態の確認をし、小規模多機能型居宅介護事業所を利用することにより、住み慣れた自宅に帰って生活ができるか等模索していきたい。

(1) 運営状況

【利用状況推移】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	49 (24)	42 (26)	42 (26)	37 (27)	36 (26)	37 (25)	42 (26)	42 (25)	38 (26)	37 (25)	33 (24)	36 (24)	39.2 (25.3)

※ 30年度月平均利用人数 46.5人 (17.8人)

() 介護予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ブランチ	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	6
実態把握	1	0	2	3	6	4	4	2	1	2	3	1	29

※ ブランチ型…要支援・要介護まで至らない方。独居、高齢夫婦世帯対象

※ 実態把握…ブランチ型で訪問し継続して訪問の必要な方対象

【介護度別利用実人数】 令和02年03月31日現在 平均要介護度：2.1 (30年度：2.1) ()は30年度比

	要支援			要介護					合計
	事業対象	1	2	1	2	3	4	5	
男性	1	1	3	7	2	4	2	0	20(+1)
女性	0	9	10	6	8	6	0	1	40(-9)

(2) 苦情受付

受付件数：0件

(3) 地域連絡会

(参加者) 砥部町保健師、砥部町国保診療所(医師、看護師)、砥部町地域包括支援センター職員、砥部社協訪問介護職員、特養ひろた生活相談員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、居宅介護支援専門員

(開催場所) ひろた交流センター研修室

(開催日時) 毎月 第4火曜日 13:30～

(協議事項) サービス担当者会議、ケース検討、各機関連絡事項、その他

【2】たちばなの家じゃんけんぽん

【令和元年度目標の評価】

【重点目標】いきいきとした在宅生活が続けられるための支援

元年度も新規利用者の獲得に向けて、限られた職員数の中で可能な限り居宅訪問を継続した。体験利用が16件あり、うち9人が新規利用となったが、新規利用のほとんどが要支援の方で、月平均の延べ利用者数は介護：85.0人、要支援：50.1人となり、要介護利用者が目標を大きく下回った。利用相談等の問い合わせは定期的にあるため、少しでも利用につながるような魅力のあるサービスを提供し、アピールしていく必要がある。また、新たな取り組みとして、地域包括支援センター東拓南に協力し、研修会の運営に携わった。その中でたちばなの家の活動内容を紹介する等、他事業所に向けた広報活動も行った。新規利用者獲得に向けて、広報活動を継続するための時間の確保と居宅訪問のエリアを再検討していくことが課題である。

30年度からの課題でもあった記録シートについては、元年度で見直しを行った。法人内での研修会に参加し、記録シートの重要性や記載方法等、有効な活用方法を学ぶことができた。水分摂取量や活動状況等記録シートを充実させていくことで、個別ケアを深めて在宅生活が一日でも長く継続できるよう支援していく。

(1) 運営状況

定員 10 人 稼働率・・・62.8% (通所介護＋総合事業)

【通所介護】 平均年齢 87.0 歳 平均要介護度 1.3 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	8	8	8	10	10	8	8	6	7	7	6	6	92
利用延人数	93	96	84	111	98	88	90	71	77	69	67	76	1,020

※ 30年度延利用人数 1,298人 平均年齢 86.8歳 平均要介護度 1.4

【総合事業】 平均年齢 85.3 歳 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	9	9	11	11	11	10	10	11	11	11	10	10	124
利用延人数	49	50	51	59	44	46	47	49	54	51	49	53	602

※ 30年度延利用人数 484人 平均年齢 81.0歳

【介護度別利用実人数】 令和02年03月31日現在 単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用実人数	6	4	4	2	0	0	0	16

【介護度別利用延人数】 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均回数
要支援1	16	16	17	18	18	16	20	19	22	20	19	23	224	18.6
要支援2	33	34	34	41	26	30	27	30	32	31	30	30	378	31.5
要介護1	71	73	64	81	72	66	63	45	52	45	43	49	724	60.3
要介護2	22	23	20	30	26	22	27	26	25	24	24	27	296	24.6
要介護3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	142	146	135	170	142	134	137	120	131	120	116	129	1,622	135.1
稼働率 (%)	64.5	63.4	67.5	73.9	64.5	63.8	59.5	57.1	62.3	60.0	58.0	58.6	62.8	

※ 年間営業日数 258日

(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

クッキング・おやつ作り 3回/月程度

屋外歩行訓練

3回／月程度

季節行事等

誕生会、お花見、遠足、七夕飾り作り、風鈴作り、手提げバック、獅子舞見学、地方祭
ミニ運動会、愛・民家連合同運動会、もちつき、初詣、豆まき等

ボランティア

オシマ歌謡ショー

《評価》

屋外に出る機会が減っている高齢者にとって、デイサービスは社会とつながる場としての機能も大きい。生活リハビリとしての効果もある調理やおやつ作り、かつては当たり前のようにしていた季節の行事を他の利用者と一緒に行うことで、在宅生活を継続するための機能の維持と認知症予防に取り組んだ。

民家型事業所のため、室内での機能訓練には限界があり、気候の良い時期は積極的に屋外に出掛け歩行訓練を行った。小規模事業所のメリットを活かし、その日の希望を聞き柔軟に対応する等、利用者が意欲的に参加できるよう支援した。

《行事写真》



【お茶揉み】



【オシマ歌謡ショー】



【七夕飾り作り】



【ふるさと旅行村】



【獅子舞見学】



【初詣 伊佐爾波神社】

(地域交流イベント)

○「ひろた野菜市」

目的：広田地域の農家が作った季節の野菜等の販売を通じて周辺
住民との交流を図る

実施状況：隔月第2土曜日（5回実施）



【ひろた野菜市】

○「もちつき」

目的：たちばなの家利用者と周辺住民との交流

実施状況：令和元年12月19日（木）



【もちつき】

地域交流イベントは地域に浸透してきて、回を重ねるごとに新しい方も増え、情報交換もでき、楽しいひとときとなっている。だが、一つ路地をはさんだ隣の地域の方は事業所の存在を知らなかったという気づきもあった。継続的に地域とつながりを持てる新たな企画も検討していきたい。

(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・4件

《危険度1》 …… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 4件

事故報告書・・・4件

《危険度2》 …… 処置は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要 2件

《危険度3》 …… 簡単な処置や治療を要した（消毒・ガーゼ保護、湿布） 2件

②内容

バランスを崩して転倒	2	服薬忘れ	2
歩行中のふらつき	4		

③原因

確認不足	4	利用者の不注意	3
環境整備が不十分	1		

④件数の推移

27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
10件	12件	7件	4件	8件

⑤分析

ヒヤリハットの4件はいずれも室内移動中のふらつきで、職員が傍にいたことで転倒には至らなかった。

事故4件のうち2件は転倒であった。1件は屋外の歩行訓練中に地面に足が引っ掛かり転倒、もう1件はレクリエーション後に椅子に座ろうとして座り損ねたものであった。どちらも湿布で対応し大事には至らなかった。屋外の移動はリスクが高まるため、職員の役割を明確にしていくこと、レクリエーション後の転倒は、職員は利用者が席に着いたことを確認してから次の行動に移るよう徹底した。他の2件は服薬忘れであった。預かった定期薬の管理と確認方法を再検討し、リーダーが服薬確認を行うよう徹底した。

不慣れな職員へのフォローが足りずにミスが起こってしまうこともあった。互いに声を掛け合い確認しながら、安全確保に努めていく。

(4) 防火・避難訓練

- 実施日：令和元年10月16日（水）
- 参加者：利用者 4人（全員参加）
職員 4人
- 消防署の立ち会いなし



【避難訓練】

《評価》

消防署からのアドバイス

- ・通報の際は固定電話の使用は控え、携帯電話を使用し避難しながら通報するのが望ましい。
- ・誰が通報しても、事業所の情報（住所・電話番号等）がきちんと伝えられるように指導してもらいたい。

令和元年度 素鷲地区防災訓練

○実施日：令和元年 09 月 01 日（日） 08：30～12：00

○参加者：職員 1 人

○会 場：拓南中学校（グラウンド、体育館）

○内 容：応急救護訓練、情報伝達訓練、避難・救護・救出訓練他



【拠点機能形成車と内部】

《評価》

南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.0）が発生した想定で訓練を実施した。近隣の事業所も参加しており、災害時にはお互いに協力することができるのではと話し合った。地域に根差した事業所として災害時に連携できるよう検討していきたい。

（5）運営推進会議

第1回

○日 時：令和元年 06 月 27 日（木） 14：00～15：00

○参加者：地域住民代表者 1 人、地域包括支援センター職員 1 人、松山市職員 1 人
近隣事業所職員 2 人、利用者の家族 1 人
施設長、たちばなの家じゃんけんぽん管理者・生活相談員

第2回

○日 時：令和元年 12 月 19 日（木） 14：00～15：00

○参加者：地域住民代表者 1 人、地域包括支援センター職員 1 人、松山市職員 1 人
施設長、たちばなの家じゃんけんぽん管理者・生活相談員

《評価》

利用者の家族から「様々な行事やイベントがあり家族として嬉しい。高齢なので無理のない範囲で楽しめる行事を続けてほしい」と意見をいただく。地域住民からは「楽しそうな行事を開催しており、自身も参加したくなる」と感想をいただく。

松山市職員からは事故報告に関して、細かな分析を行いリスク予防に努めてもらいたいとアドバイスあり。

地域交流イベントの効果もあって、地域住民に事業所の存在を認識してもらっている、今後も地域住民と顔の見える関係づくりを積極的に続けていきたい。

（6）苦情受付

受付件数：0 件

(7) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、たちばなの家職員

(主な協議事項) 担当より連絡・報告 ケース検討 実績報告 事故検討

開催日	協議項目
H31. 04. 29	施設内研修『接遇・個人情報保護』
R01. 05. 31	認知症周辺症状への対応検討 タイムレコーダー設置
06. 27	認知症周辺症状への対応検討 勤怠管理
07. 29	認知症周辺症状への対応検討 施設内研修『食中毒』
08. 27	認知症周辺症状への対応検討 職員配置の注意点 新規利用者獲得検討
09. 30	避難訓練の報告 経費の処理方法
10. 24	施設内研修『排泄ケア』
11. 27	新記録シート記入方法 年末年始休業間における利用者のニーズ調査 施設内研修『感染予防』
12. 26	認知症周辺症状への対応検討 インフルエンザ注意喚起 実地指導
R02. 02. 06	認知症周辺症状への対応検討 インフルエンザ流行の注意喚起 送迎車両入替
02. 27	感染予防委員会報告 管理者交代
03. 21	新型コロナウイルスの感染予防策の検討

〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）

【令和元年度目標の評価】

【重点目標】 身体機能の維持・改善、利用が楽しみになるデイサービスメニューの実践

通所介護は、実人数が年度初めの 39 人から 26 人と大きく減少した。元年度の利用終了者は 14 人、そのうち 7 人が施設入居であり、通所での支援の限界を感じた。総合事業の実人数は 30 年度並みだったが、要支援 2 の割合が増えたことで、延べ利用者数は増加した。

軽度認定者の割合が増えたため、特にリハビリやレクリエーションの内容を工夫した。ちぎり絵の制作は女性利用者を中心に組み立てられており、季節のものからゆるキャラまでたくさんの作品が完成している。朝の迎え時から「今日はあれを仕上げようと思う」と意欲的に取り組まれる利用者もいた。

また、歌いながら上下肢を動かす認知症予防体操を導入、最初は参加意欲の低かった男性利用者も徐々に身体を動かされるようになる等、体操のレパートリーも増え、活気のある時間となっている。この体操を自宅で家族と一緒に取り組む利用者や、「家でも思い出しながらやっている」という独居利用者もあり、家族や介護支援専門員から「表情が明るくなった」「穏やかになってきた」との声も聞かれた。中には、受診時の認知機能検査で改善が見られ、認定更新で介護度が改善した利用者もいた。

総合記録シートを導入して 2 年が経過した。日々の変化を家族や担当介護支援専門員に報告・相談し、情報共有に努めたが、それを記録として残すことが十分でなかった。根拠に基づいた支援を継続していくためにも、記録の重要性を理解し実践できるようにしていきたい。

(1) 運営状況

定員 25 人 稼働率・・・69.3% (介護+総合事業)

【通所介護】 平均年齢 87.6 歳 平均要介護度 1.7 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	39	36	36	33	34	34	35	32	29	27	27	26	388
利用延人数	334	335	291	305	301	305	340	270	263	218	220	243	3,425

※ 30年度延利用人数 3,902人 平均年齢 86.4歳 平均要介護度 1.9

【総合事業】 平均年齢 87.5 歳 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	15	15	16	17	17	16	15	14	13	14	13	14	179
利用延人数	78	90	81	101	93	89	94	87	77	85	75	96	1,046

※ 30年度延利用人数 838人 平均年齢 86.5歳

【介護度別利用実人数】 令和02年03月31日現在 単位：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用実人数	0	4	10	14	7	4	0	1	40

【介護度別利用延人数】 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均人数
事業対象者	11	11	9	11	7	6	5	3	0	0	0	0	63	5.2
要支援1	11	12	15	17	15	16	14	10	13	15	15	18	171	14.2
要支援2	56	67	57	73	71	67	75	74	64	70	60	78	812	67.6
要介護1	142	143	130	116	115	102	128	109	112	113	113	138	1,461	121.7
要介護2	79	87	66	93	91	112	133	95	82	69	51	53	1,011	84.2
要介護3	83	76	77	81	82	77	67	55	59	25	48	43	773	64.4
要介護4	2	0	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10	0.8
要介護5	28	29	11	15	13	14	12	11	10	10	8	9	170	14.1
合計	412	425	372	406	394	394	434	357	340	303	295	339	4,471/372.5	
稼働率 (%)	74.9	73.9	74.4	70.6	71.6	75.0	75.4	68.0	64.7	60.6	59.0	61.6	69.3	

※ 年間営業日数 258日

(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

食事作り・おやつ作り 4回/月程度

誕生会 毎月

季節行事

お花見、和楽器演奏会、移動動物園、地方祭、クリスマス会、忘年会、新年会
ボランティア

「おはなしかい」 砥部町立図書館・広田保育所 (奇数月)

音楽ボランティア (岩井民謡教室) (ライリッシュオカリナ連盟松山支部)

広田小学校交流会 (広田小学校)

《評価》

利用者が少しでも楽しみを持って参加できる行事の企画に努めた。中でも食事やおやつ作りは好評で、作る過程から味わうまでを全員で共有することで、より会話が弾み活気ある時間となった。地域柄、畑で収穫した野菜や季節の山菜等の差し入れも多く、特に女性利用者は慣れた手つきで意欲的に取り組まれていた。認知症のある利用者も一緒に参加することで、かつてのことを思い出し懐かしそうに話される等、回想法の要素も加わり効果的なりハビリの時間ともなっている。独居の男性利用者の中には、調理過程を見ることで「ちょっと家でもやってみようか」と意欲的な声も聞かれた。また、様々なボランティアの方にも協力をいただき、地域の交流の場にもなっている。

2年度も引き続き、デイサービスを利用することで気持ちが前向きになり、体調が安定し、1日も長く自宅での生活が続けられるよう、楽しめるデイサービスにしていきたい。

《行事写真》



【お花見】



【釜揚げうどん】



【岩井民謡教室】



【回転寿司】



【ライリッシュオカリナ連盟松山支部】



【ミニ門松作り】

(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・12件

《危険度0》	…	事故を未然に防ぐことができた	1件
《危険度1》	…	事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった	11件

事故報告書・・・10件

《危険度2》	…	処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要	6件
《危険度3》	…	簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用)	3件
《危険度4》	…	濃厚な治療を要した(骨折・縫合・入院等)	1件

②内容

転倒	12	表皮剥離	1
配薬ミス	1	切創・出血	1
誤薬	1	個人情報漏洩	1
機能訓練器負荷設定ミス	1	浴室階段で足が滑る	1
利用予定の相違	1	利用者が他利用者宅敷地で降車	1
乗車時頭部打撲	1		

③原因

見守り不十分	10	確認不足	2
マニュアル・ルール不遵守	1	職員の不注意	1
知識・技術不足	1	環境・設備不十分	3
利用者の不注意	3	行動予測不十分	1

④件数の推移

27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
11件	9件	23件	33件	22件

⑤分析

事故件数は、30年度と比較して11件減少した。とはいえ、内容に着目すると転倒事故は12件で、4件増加している。その中でも、帰宅前に乗車完了した利用者が、自力でシートベルトを外し降車、事業所玄関前で長座位の状態で見送られるという事故が発生した。事故後は定期的に自宅を訪問し状態確認を行ったが、10日後に大腿部の骨折が判明する結果となった。他の利用者の対応で、利用者が降車する際に職員が車周辺にいなかったことが反省点として挙げられた。当時の職員の動きを細かく聞き取り、事故に至った可能性をできる限り絞り込んで家族に報告と謝罪を行った。また、カンファレンスや在宅ケア委員会で職員の役割分担等配置を見直し、再発防止策を徹底した。家族からの要望を真摯に受け止め、事故防止に努めていきたい。

(4) 苦情受付

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：1件

苦情内容：転倒事故発生後、同居の家族・介護支援専門員への事故報告行うも、身元引受人への迅速な連絡と受診対応希望があった。

対応内容：①事故翌日午前中、身元引受人に状況説明報告・謝罪行う。

②毎日身体状態確認のため、自宅訪問行う。

③事故発生時の状況、分析、今後の対応策等繰り返しカンファレンス実施。

④文書作成し、身元引受人に改めて詳細説明と謝罪を行った。

(5) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、砥部町デイサービス職員、居宅介護支援事業所

(主な協議事項) ケース・業務検討、各部署・委員会より連絡

開催日	協議項目
H31. 04. 30	認知症予防体操の導入
R01. 05. 27	ケアプラン記録の統一
06. 25	利用者の現状報告
07. 26	業務の再確認と周知
08. 30	新規利用者カンファレンス
09. 27	地域支援事業の計画
10. 21	業務の確認
11. 21	利用中止者の現状報告 感染予防 (インフルエンザ)
12. 20	排泄ケア
R02. 01. 29	感染症予防策と水分ケア
02. 26	事故分析と対応策確認 人事異動報告 感染予防 (新型コロナウイルス)
03. 24	元年度の振り返り

[4] 砥部町地域支援事業 (砥部町受託事業)

(1) 転倒予防教室

新型コロナウイルス感染防止のため開催中止。

(2) 地域住民グループ支援事業

(目的) 地域や世代間の交流を図ることにより、高齢者の生活意欲の向上を目指す。



【ぶどう狩り】

令和元年 8 月 28 日 (火) 参加者：8 人



【移動動物園】

令和元年 10 月 15 日 (火) 参加者：36 人



【三世交代大運動会】

令和元年 11 月 19 日 (火) 参加者：28 人

《評価》

元年度は職員発案の事業計画で久しぶりに移動動物園を開催した。地域にも広く呼び掛け、未就園児、保育所、小学校に加え、地域の方々も参加していただいた。

世代を超えた人々が集まる機会は年々減っており、この事業を通して少しでも多くの方々が交流できるよう支援していきたい。

(3) いきいき見守り配食サービス

(目的) 65 歳以上の独居高齢者等で調理が困難な希望者に、バランスのとれた食事を提供するとともに定期的な安否確認を行う。

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	2月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数	6	6	7	5	5	4	4	4	4	5	4	4	58/4.8
延利用回数	40	44	42	30	36	28	37	33	37	46	35	39	447/37.2

《評価》

年度当初は食数、利用人数も増えたが入院等により徐々に減少した。栄養バランスのとれた食事の提供、独居高齢者の安否確認を継続して行い、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう支援を行っていきたい。

[5] 支援ハウス (砥部町受託事業)

(1) 運営状況

定員 10 人

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居人数	8	8	8	7	8	7	7	8	8	8	8	8

※ 入居人数は月末入居人数

(2) 行事報告

砥部町デイサービスセンターや特養ひろたの催し物に随時参加

4. 会 議 等

〔1〕主任会

事業運営、各事業所の課題検討、実績報告等話し合いを行う。

(参加者) 施設長、部長、施設部門主任、在宅部門主任

(開催日) 2か月に1回程度 14:00～

(主な協議事項) 各部署からの報告・連絡・アクションプランの評価

開催日	協議事項等
H31. 04. 16	職員旅行・スポーツ大会の実施方法 時間有休の取り方 人事等
R01. 06. 20	調整会議
08. 05	老施協災害派遣登録 特定処遇改善加算算定の検討 人事等
09. 06	日用品の単価変更 ショートステイ増床後の対応検討 パート職員の評価方法 人事等
10. 04	防災 セクハラ・パワハラ防止・対応
11. 01	調整会議
12. 06	たちばなの家じゃんけんぼん実地指導報告 床暖房設定時間 人事等
R02. 01. 10	介護事故報告 小規模多機能型居宅介護事業所開設準備状況 人事等
02. 07	事故防止における施設2階の施錠等 喫煙場所・受動喫煙対策 人事等
03. 06	新型コロナウイルス感染症対策(外来者・食品の持ち込み) 玄関施錠時間の変更 感謝祭開催可否検討 喫煙場所 人事等

〔2〕職員会

施設運営に関する職員間の情報共有を行う。

(参加者) 全職員

(開催日) 3か月に1回 第1週目 17:30～

(主な協議事項) 行事予定の連絡 各部署からの連絡事項

開催日	参加人数	協議事項等
H31. 04. 01	19	辞令交付 人事異動 超過勤務申請方法 労働者の代表選任 施設部門改修工事概要 互助会決算報告
R01. 07. 01	20	理事会・評議員会報告 健康増進法(喫煙者のマナー) 施設部門改修工事計画の説明
10. 01	23	インフルエンザ注意喚起 新規車両導入 報酬改定 避難訓練振り返り 職員旅行の説明 次年度事業計画案募集
R02. 01. 06	22	安全運転注意喚起 事業計画案投票依頼 人事 労災事故報告 新規事業経過状況

〔3〕広報委員会

広報紙「広寿」の編集発行を中心に、法人及び事業所の情報発信に努めていく。

(参加者) 各部署で選定された職員

《振り返りと課題》

元年度は、第 39 号(令和元年 10 月)、第 40 号(令和 2 年 1 月)を発行し、施設利用者や家族、地域住民、そして近隣施設等関係機関へ配付した。



【広寿第 39 号】

【広寿第 40 号】

発行回数を増やし、各事業所の取り組み内容等の情報発信に努めたい。

ホームページやブログを活用した情報発信

日常の様子をタイムリーに伝える手段として有効活用を努め、情報発信をしていく。

- 広寿会ホームページ
<http://www.koujukai-hirota.com/>

- ブログ 「ほのぼの♪ひろた日記」
「たちばな便り じゃんけんぽん」



ブログ「ほのぼの♪ひろた日記」

《振り返りと課題》

法人全体で発行する「広寿」は 2 回の発行となった。たちばなの家が独自発行する「たちばなの家 じゃんけんぽん便り」は毎月発行し、利用者や家族、居宅介護支援事業所から評価をいただいた。ブログに関しては、定期的に更新行ったものの後半は更新が滞ってしまった。家族等が興味を持って閲覧していただくことができるよう情報発信をしていきたい。

〔4〕防災委員会

防災に関する知識を養い、その対策全般に関する検討及び実行をする。

(参加者) 施設長、部長、防火管理者・特養生活相談員、居宅管理者、砥部町デイサービスセンター生活相談員、看護主任、管理栄養士

開催日	協議事項
R01. 10. 01	防災マニュアルの見直し 防災訓練の反省
R02. 03. 06	防災訓練実施要綱の検討 防火管理者の交代について

① 防災訓練等の実施状況

年月日	訓練の名称及び内容	
R01. 10. 01	第 1 回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練、レスキューシート訓練、消火訓練) ※地震火災想定 ※初期消火訓練は、特養ひろた・砥部町デイサービスセンター合 同で実施	

【レスキューシート訓練】

R01. 11. 10	福祉避難所設置訓練 ※砥部町内社会福祉法人連携	
R02. 03. 26	第2回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練) ※夜間火災想定(特養) ※新型コロナウイルス感染予防のため自主訓練とする。通報・逆信 対応のみ伊予消防署協力にて実施	 <p>【避難訓練】</p>

《総評》

砥部町内社会福祉法人連携では、砥部町内4件の法人が集まり、福祉避難所設置訓練を行った。実際に避難所設置から避難者受け入れまで一連の動作を訓練できたことで、問題点を再確認することができた。また法人で協力できる体制を整えることの大切さを学ぶことができた。

年2回の防災・防火訓練では、初期消火・避難誘導・通報訓練の大切さを学んだ。夜間対応での防災訓練では、火災場所の特定に時間がかかり、確認に関してもマニュアルの整備が必要であると感じている。

〔5〕給食委員会

「食＝命」をテーマに、より良い食の提供を施設職員、厨房委託業者職員とともに取り組む。

(参加者) 委託業者、施設長、部長、施設部主任、砥部町デイサービスセンター生活相談員
管理栄養士

(開催) 毎月1回

(主な協議事項) 利用者の食事摂取状況や料理の味付け、献立内容、食事形態等

《総評》

やわらか食やソフト食について、アイデアを出し合い試行錯誤することにより、質の良い食事が提供できるようになった。元年度は委託事業者よりフェアメニューの提案があり、食の楽しみを持ってもらえる機会が増えた。今後も委託事業者と連携しながら利用者に喜ばれる食事提供をしていきたい。

行事食

【施設・在宅部門】

月	日	行事	献立内容
	02	お花見	ちらし寿司・だし巻き玉子・鶏の唐揚げ・和え物・炊き合わせ・桜餅・いちご
04	29	開園18周年記念 感謝祭	うどん・お好み焼き・ポテト フランクフルト・カレーライス デザート



05	30	祝い膳	巻き寿司・鱈の酒粕やき・コロッケ・アスパラの卵とじ・じゃこ和え・すまし汁・ヨーグルトケーキ
06	11	手打ちうどん	うどん・おにぎり・天ぷら盛り合せ・酢の物・ごまプリン
07	30	肉フェス	おにぎり・やき肉・ぶどう
08	21 28	そうめん流し(特養) たらいそうめん (砥部デイ)	そうめん・おにぎり・鶏の唐揚げ・やきナス・枝豆・玉子やき・ぶどう
09	04	祝 101 歳の祝い膳	巻き寿司・天ぷら盛り合わせ・チキンステーキ・トマトサラダ・オムレツ・すまし汁・水まんじゅう
10	03	秋刀魚の会	おにぎり・秋刀魚の炭火やき・梅肉和え・だし巻き玉子・いも天・りんご
	20	家族の会	おにぎり・いもたき・天ぷら盛り合わせ・さつまいものココアケーキ
11	06	回転寿司(砥部デイ)	にぎり寿司(ハマチ・マグロ・エビ・穴子・玉子・いなり寿司)
	07	(特養)	赤だし・プリン
12	25	クリスマスランチ	チキンライス・クリスマスチキン・サラダ・パンプキンポタージュ・いちごムース
	27	もちつき	もちパイキング・肉巻き・ごま和え・抹茶ようかん
01	01	お節料理	巻き寿司・刺身・三点盛り・酢の物・若鳥の甘辛だれ・岩石玉子・すまし汁・栗きんとん
02	25	祝い膳	にぎり寿司・かき揚げ・茶碗蒸し・かぶのゆず味噌かけ・白菜の和え物 赤だし・バター餅
03	24	お花見弁当	鶏の唐揚げ・白和え・つくし卵とじ・エビフライ・ひじき煮物 玉子やき・桜餅・いちご

《振り返りと課題》

肉・魚については以前からやわらか食で提供していたが、窒息するリスクの高い利用者にもできるだけ食事を楽しんでいただきたいの想いから、新たに麺や副菜のやわらか食に取り組んだ。舌でつぶせるやわらかさでありながら見た目は普通食と変わらないため、ソフト食よりも視覚的に食事として認識もしやすく、食欲を引き出すことができた。はじめは薬物から開始し、現在はいも類やかぼちゃも提供できるようになった。提供できる食材を増やせるようさらに検討している。

利用者にとって『食』は大きな楽しみである。安全に美味しく、楽しい食生活を送っていただけるよう、今後も委託事業者と連携し取り組んでいく。



【菜の花の和え物】



【やわらか食の菜の花の和え物】

コンベクションにて長時間茹でる事により軟らかい食感に仕上がる。



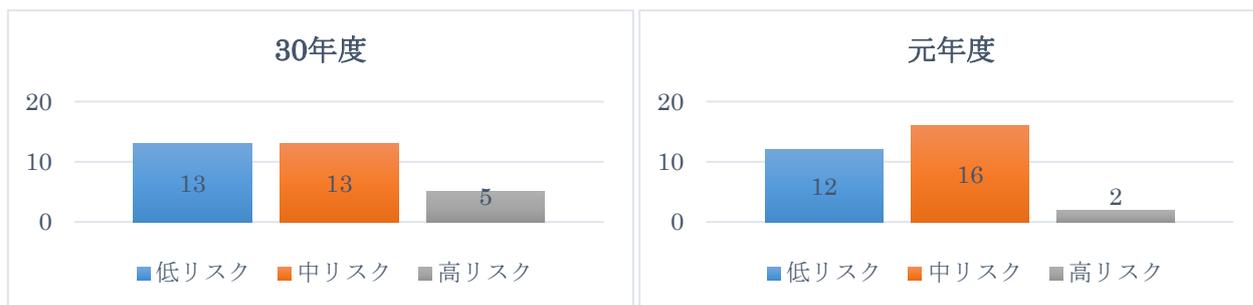
【鴨南蛮そば】



【やわらか麺の鴨南蛮そば】

麺を長時間つゆに漬けておく事により麺をふやかして軟らかくしている。

① 栄養ケアマネジメント評価



年 2 回の健診結果や体重の推移、褥瘡の有無や栄養摂取状況等から利用者個々の状況を把握し、栄養状態の改善に向けて取り組んでいる。30 年度と比較すると、高リスク者は 5 人から 2 人に減少した。褥瘡が治癒したこと、本人に合った義歯を作成することで食事摂取量が増え、食事形態を徐々に普通食に近づけていくことで体重も増加し改善につながった。また、栄養補助食品を追加提供することで改善が見られた利用者もいる。

しかしながら、中リスク者は 13 人から 16 人に増加している。利用者の多くは複数の疾患を抱えているため、多職種が専門性をもって日々利用者の変化を観察しながら、一人ひとりに合った食事を提供し栄養状態の改善を目指していく。

② 経口維持評価

医師又は歯科医師の指示に基づいて、誤嚥が認められる利用者が安全に食事摂取できるよう取り組んでいる。元年度は対象者が 12 人から 5 人に減少した。12 人のうち 5 人は退居、1 人は経管栄養へ移行、2 人は改善が見られた。改善した 2 人は窒息予防の対応を行うことで安全に食事が摂れるようになったこと、義歯を作成することでしっかりと咀嚼できるようになり、覚醒状態も良くなったことで食事形態が普通食に近づき、誤嚥のリスクが改善した。

取り組みを継続している 5 人には、覚醒を促すマッサージや食前に練り梅やブドウ糖をすすめることで覚醒を促す等、歯科医師や歯科衛生士と連携し安全に美味しく『口から食べる』ことに取り組んでいる。

5. 研修等

〔1〕施設実習等受入状況

期間	活動内容	団体及び個人名	人数
R01. 06. 11～ 06. 13	インターンシップ【職業体験】	愛媛県立小田高等学校	1
08. 19～ 08. 22	えひめジョブチャレンジU-15 事業	砥部町立砥部中学校	2

〔2〕施設内研修

開催日	研修名	担当者名
H31. 04. 01	倫理及び法令遵守	西岡真由美
04. 22 04. 25	接遇・個人情報保護	廣藤智和
R01. 05. 21 05. 29	事故防止	二宮幸栄
06. 28 07. 02	ターミナルケア	梅原弘規
07. 01	食中毒	松本真理
07. 17	救命救急	上谷千代
07. 23 07. 30	摂食ケア	吉見涼
08. 28 09. 03	身体拘束・虐待防止	中野あかね
09. 17 09. 19	安全運転	廣藤智和
10. 01	感染症（ノロウイルス、インフルエンザ）	原田賢一
10. 09 10. 11	排泄ケア	上谷千代
12. 25 12. 27	総合記録シートに関して	二宮幸栄、上谷千代
R02. 01. 06	身体拘束・虐待防止	二宮幸栄
01. 24 01. 28	認知症	門田佑介
02. 27 03. 02	事故予防	藤岡早苗
03. 27 03. 30	ターミナルケア、褥瘡	廣藤智和、原田賢一

【研修会】

年間計画に沿って担当を決め、毎月行われる研修委員会で事前に研修内容を検討している。前半はパワーポイントを使用して勉強会をし、後半は事例に基づいてケアの検討を行った。また、研修内容によっては外部講師を招き研修を実施している。



【研修会の様子】

介護の知識のテキストを職員全員に配付した。テキストを基に研修を行うことで、統一したケアができるよう配慮した。

サブリーダー以上が研修担当者になることで、職員のスキルアップにつながっている。



【救急救命講習の様子】

救命救急講習は、外部から専門講師を招いて実施した。窒息による異物除去を中心に講義をしていただいた。

人形を使っての実技によって分かりやすく、職員は再認識・再確認できる、とても良い研修となった。



社会福祉法人 広寿会

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話：089-969-2155 FAX：089-969-5151

HP：<http://www.koujukai-hirota.com>



特別養護老人ホームひろた 短期入所生活介護事業所ひろた

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話：089-969-2155 FAX：089-969-5151

Mail：info@koujukai-hirota.com

ブログ：<https://ameblo.jp/koujukai-hirota/>



地域密着型通所介護事業所 たちばなの家じゃんけんぽん

〒790-0966

愛媛県松山市立花 1 丁目 11 番 3 号

電話：089-906-5171 FAX：089-946-9033

Mail：jankenpon@koujukai-hirota.com

ブログ：<https://ameblo.jp/ds-jankenpon/>



砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 398 番地

電話：089-969-2211 FAX：089-969-5151

Mail：info@koujukai-hirota.com

ブログ：<https://ameblo.jp/koujukai-hirota/>





※事業報告書は社会福祉法人 広寿会ホームページにて閲覧できます。
アドレス：<http://www.koujukai-hirota.com>